

喜多能楽堂で地元品川区の皆様にご覧いただき鑑賞会も9回目、今回は令和4年12月に開催した第7回公演の好評を受けて再び雅楽と能楽の競演です。

約650年の歴史ある能楽に対し、雅楽は約1300年の歴史を今に伝える伝統芸能ですが、能楽は作品面や音楽面等に雅楽から大きな影響を受けています。

二つの芸能を比較してみることで共通点や相違点、それぞれの特徴を発見していただきながら、地元品川区で脈々と活動を続けている日本を代表する二つの伝統芸能をお楽しみください。

プログラム

● 朗詠「松根」 雅楽道友会

朗詠は漢詩や和歌に節をつけて楽器の伴奏を入れて歌ったもの。貴族社会において平安中期頃から大変に流行しました。

● 解説 末広弓雄 (雅楽道友会) 金子敬一郎 (喜多流能楽師)

朗詠「松根」の歌詞「松根に倚って腰をすれば…」は同じく能「高砂」の詞章にも引用されています。

雅楽の歌物と能楽の謡曲について解説します。

● 半能「高砂」 能楽喜多流

喜多流の能「高砂」を上演。今回は住吉明神が顕現する後半の上演です。

● 解説実演 末広弓雄 (雅楽道友会) 金子敬一郎 (喜多流能楽師)

雅楽と能楽の面・装束について解説を交えながらそれぞれ着付けを実演します。

● 舞楽「還城楽」 雅楽道友会

「西域の人は好んで蛇を食する。これを捕まえて飲む様を舞にした」との伝から別名「見蛇楽」といわれる舞楽。凡そ1300年前、天平の時代に林邑(現ベトナム)、天竺方面から伝わったとされます。

雅楽道友会

雅楽道友会は昭和42年、元宮内省楽部楽師、藺廣教を中心に有志が集い、民間への雅楽の普及および技術向上を目的として発足した団体です。会長となった藺廣教は後進育成こそが天命であると悟り、志ある者を内弟子として育て、民間で初めて雅楽を専門職とする集団を作り上げるとともに数多くの指導者を世に送り出しました。現在も内弟子であった職員を中心に恩師の名「広く教える」を旨に正しい古典の伝承に励み、会の名称である「雅の道の友」の集まりであり続けることを指針に、演奏活動、管楽器の製作をはじめ、会員育成や各地の雅楽団体への技術指導にも積極的に取り組んでいます。



● 雅楽道友会ホームページ <https://gagaku.com>

会場： 十四世喜多六平太記念能楽堂 (喜多能楽堂)



〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9

JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分。目黒駅西口よりドレメ通りを直進。杉野学園体育館手前を左に入る。

※当能楽堂は駐車場施設がございませんので、お車でのご来場はご遠慮願います。

出演

雅楽 雅楽道友会

● 朗詠「松根」

(一ノ句) 加藤 道信
 (二ノ句) 末広弓雄
 (三ノ句) 福岡三朗
 (笙) 石井千江美
 (箏) 田中正之
 (笛) 和栗一恵
 (付歌) 池邊五郎 新屋治 今西靖志
 大西貴子 藤脇亮 加藤利菜

● 舞楽「還城楽」

(舞人) 宇野和史
 (三ノ鼓) 池邊五郎
 (太鼓) 福岡三朗
 (鉦鼓) 和栗一恵
 (笙) 末広弓雄 石井千江美 大西貴子
 (箏) 今西靖志 新屋治 田中正之
 (笛) 藤脇亮 加藤道信 加藤利菜

能楽 喜多流

● 半能「高砂」

(シテ) 長島茂
 (ワキ) 則久英志
 (笛) 一噌幸弘
 (小鼓) 曾和伊喜夫
 (大鼓) 佃良太郎
 (太鼓) 梶谷英樹
 (地謡) 金子敬一郎 高林呻二 佐々木多門
 大島輝久 塩津圭介 佐藤陽
 (後見) 狩野了一 粟谷浩之

